

1 取組名称

国際性を育む分野横断的な「比較文学」教育プログラム

2 取組組織等

都市教養学部人文・社会系国際文化コース

3 取組実施代表者名

都市教養学部人文・社会系国際文化コース 准教授 西山 雄二

4 取組年度期間

平成 28 年度

5 取組の概要

現在、人文・社会系では教育の共通プラットフォームを構築し、国際化に対応した学生の教育環境を整備するべくプログラムの開発が進められている。こうした取り組みをさらに発展させるため、国際文化コースの文学系の4分野が共同して、招聘する海外研究者によるオムニバス形式の連続セミナー「文学と愛」を開催する。

本企画の目的は次の3点である。①招聘研究者によるオムニバスの連続国際セミナー「文学と愛」(全3-4回)を実施することで、参加する学生が比較文学的なアプローチの学習の機会をもっとも効果的な仕方でも得ること。②英語ないしフランス語で実施される国際セミナーへの参加によって、学生が外国語の貴重な学習経験を得ること。③一過性の招待講演に終わらせることなく、中・長期的な持続性のある教育プログラムの国際連携を強化すること。

複数の文学系教室が共同し、異なる地域から招聘される多彩な研究者の連続講演によって、学生がより視野の広い国際文化理解の能力を向上させることを目指す。

6 事後評価の総合評定

3. 3 ※審査会(教育担当副学長及び部局長構成)の審査員が行った5段階評価(5~1)の平均点

7 事後評価に関する審査会での主な意見

- もっぱら国内研究者のみによる「比較文化」ではなく、海外研究者を招聘することにより、より核心に迫った「比較文化」を学ぶための興味深いインセンティブになっているものと考えられる。招聘研究者が、西洋(欧州複数国)および東洋(中国)というように多岐にわたっている点も、高く評価できる。このような機会を契機として、今後、一過性の招待講演に終わることなく、持続性のあるプログラムとして成長していくことが、強く望まれる。
- 文学系教室が協力して分野横断的なプログラムを実施して、学生の国際文化理解を促し能動的学習意欲を高めた機会になったことは評価できる。又、講演・コメントを印刷媒体・電子媒体により公表したことも、学生の事後学習効果を高めたものと、評価される。
- セミナーを聞くだけでなく、学生が本テーマについて議論したりレポートを出すなどを通じて、大学にふさわしい教育効果を生み出すことにつながるような工夫があるとよい。